

五福地区技術部報告集の刊行に寄せて

富山大学 五福地区技術部長 小熊規泰

令和4年度「五福地区技術部報告集」の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。日頃は富山大学五福地区技術部の活動に対してご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の猛威が収まりつつあり、感染症法上の5類に引き下げられようとしている中、ここ数年の生活様式が完全に元にもどることはないと思定されますがこれまでの経験を活かした新たな環境が構築されていくものと思われれます。そのような状況下で、様々な技術が新しい生活様式に適用されてきましたが、まだまだシンギュラリティをもたらしているとは言えません。大学は新しい技術を世に送り出す役割の一端を担っていますので、これからの社会を支える新たなイノベーションを創出しなければなりません。同時に、日本の少子高齢化時代を勘案した基盤技術の継承もDXを駆使しながら取り組んでいかなければなりません。

そこで本技術部としては、本学における人材育成と研究活動をますます強靱に支援することを念頭に置き、昨年度来、活動体制を見直すとともに所有技術の見える化とその発信方法の検討を行いました。まず手始めに本技術部に関する要項を改正し、これまで曖昧であった組織としての目的を明文化しました。具体的には、「技術の継承、技術の連携そしてより高度な技術支援を全学的に行って富山大学における教育研究活動の充実に資する」ことを謳いました。次に、各技術職員が有する資格と技術対応可能な事案が全教職員に分かるデータベースを構築しました。そして、このデータベースの発信によって全学から技術部への技術相談・技術支援の依頼をしやすいうようにフローチャートを作成するとともに、この取り組みを本来業務の時間外で時間の許す範囲で行うこととし、また、それぞれの技術職員が配置されている部局の長および教員に詳細に取り組み内容を説明して回り承認を得て、施行するに至りました。また、様々な技術の融合や新たな技術の創出を志向した取り組みを積極的に実現するために、気軽にテーマアップできる電子掲示板を作成し、希望者のみで学内研修による情報交換や講師招聘によるレベルアップを図るなどフットワークの軽い活動も可能としました。

上述のようにして、技術職員の持つ高度なスキルを教員や学生のみならず地域へも伝承・還元していく実績が早くも生まれましたことは喜びに堪えません。今後もこのような機会をますます増加させ、その発信に努めていただきたく切望いたしております。

末筆になりましたが、この技術部報告集は技術部における技術職員の1年間の技術の結集です。本技術部報告集をご高覧いただき、技術の共有や教育及び研究のご参考となれば幸甚でございます。今後とも五福地区技術部の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。